



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2004.07.22 No. 27 - 110

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

宇宙線被ばく防護対策を実現させ放射線障害から身を守ろう

国が私達の要請に答えてW/Gを開催

私達の宇宙線問題についての長年の取り組みに答えて、文科省は放射線安全規制検討会の下に「航空機乗務員等の宇宙線被ばくに関する検討ワーキンググループ（以下、W/G）」を設置し、その第一回会合が6月23日に開催されました。このW/Gの設置を決定した第12回放射線安全規制検討会（6月17日）で文科省の担当者は、「乗務員の組合から要請があったことがW/G開催の理由の一つ」と、私達の要請について言及しました。この検討会で確認されたW/G開催の目的は「航空機乗務員等（以下、乗務員等）における宇宙線被ばくに関して、これまでの研究成果や国際的な動向等も踏まえて検討を行なうこと」であり、また、検討内容は「乗務員等の宇宙線被ばくに関する知見について」「乗務員等の宇宙線被ばくの管理について」「その他、乗務員等の宇宙線被ばくに関すること」となっています。

このW/Gは公開で行なわれ、申し込みれば誰でも傍聴できます。第一回会合はテレビカメラ取材2社を含むマスコミなど多くの傍聴者が詰め掛け、この問題についての関心の高さを示しました。W/Gは今後3ヶ月に1回のペースで開催され、1～2年程度をかけて見解をまとめることになっています。

私達は慎重かつ十分な検討と公正な結論を求めます

W/G第一回会合の内容は、宇宙線の概略と国際放射線防護委員会（ICRP）の1990年勧告などについての説明と、W/Gの委員によるフリーディスカッションでした。

日刊航空通信はこのW/Gについて、「同W/Gは、10ミリベルト以内（一般公衆の被ばく限度の10倍：ほとんどの乗員がこれに該当）であれば安全であるというICRPの勧告に、更に、最新の情報を基に、低線量を長期間浴びても体に問題がないかどうかなどを調査し、懸念を払拭し、10ミリベルト以内の被ばくの安全性を訴えていく」と報道しています。実際にW/Gにおいて一部委員からは、「乗務員の宇宙線被ばく程度の放射線量であれば健康への影響はあまり考えられない」旨の発言もありました。

私達日乗連が日航客乗組などと合同で実施した宇宙線被ばく測定にご協力いただいた放射線防護学の専門家、日本大学歯学部の野口邦和先生は、「放射線は例え少量の被ばくでも、健康に全く問題がないとは絶対に言い切れない」と話しておられます。

W/Gが設置されたことは私達の取り組みの成果ですが、上記のような報道や一部委員の発言は問題と言えます。今後私達は、このW/Gが様々な情報や知見を公正に、そして慎重かつ十分に検討し、安易に「乗務員の宇宙線被ばくは健康に問題ない」との結論を導く事のないよう、注視していきます。

9月14日に開催されるW/Gの第二回会合で日乗連は、当事者である乗務員として感じている宇宙線被ばくへの不安などについてプレゼンテーションすることになりました。先程ご紹介したように、このW/Gは一般公開で行なわれます。皆様も是非傍聴に来てください。



航空機乗務員等の宇宙線被ばくに関する検討ワーキンググループ構成員

主査	小佐古 敏荘	東京大学原子力研究総合センター助教授
	飛鳥田 一朗	日本宇宙航空環境医学会理事長
	日下部 きよ子	東京女子医科大学医学部放射線科教授
	笹本 宣雄	日本原子力研究所国際原子力総合技術センター教官
	杉浦 紳之	東京大学原子力総合センター放射線管理室助手
	津久井 一平	(財)航空医学研究センター所長
	東 敏昭	産業医科大学産業生態科学研究所長
	藤高 和信	(独)放射線医学総合研究所宇宙放射線防護プロジェクトリーダー
	米原 英典	(独)放射線医学総合研究所宇宙放射線安全研究センター ラドン研究グループ第2チームリーダー

(敬称略、主査を除き50音順)

第二回 W/G (9月14日) の傍聴についての申し込み方法などは、9月上旬に文科省のホームページに掲載される予定です。